

## 第25回「日韓高校生交流キャンプ」参加生徒の感想文 ⑤

### 「見える景色を変えてくれた交流キャンプ」

齋藤 洋朋

明治学院東村山高等学校 2年



僕は、溢れそうになる涙を隠すように大きく手を振って韓国人学生を乗せたバスが広島空港へ向けて出発するのを見送った。韓国人学生達は思った通り涙を隠さない。感情がストレートでオープンで人懐っこくおせっかいと思われるほど面倒見が良く、僕の心に直球で入り込んできた。キャンプが終わった後も僕は良い意味で後遺症を引きずっている。

僕が第25回日韓高校生交流キャンプに応募したのは、高校生同士寝食を共にすることにより、異文化を理解しながら同じ課題に取り組み（例えば、平和学習、事業戦略立案）、問題解決する能力を鍛えたいと思ったからだ。今回の交流キャンプはその期待にこたえてくれたばかりでなく、日韓両国の高校生から刺激を受け、共にアジアで成長していけるような一生の友達を作ることができた。

まず初めに、このキャンプはビジネスと

平和について大いに勉強させられた。僕たちのチームは環境ビジネスに焦点を当て、環境にやさしいエネルギー資源（雨水浄化、晴れの日蓄電）を利用し、得た利益を発展途上国の自立発展に役立てるようなビジネスモデルを構築した。

チームで市場調査、ビジネスの新規性等調査し、会社を運営するための利益も追求するようなアイデアを出し合う。この工程で僕は、他のメンバーのリーダーシップ、ロジカルシンキング、オープンマインドネスに目を見張った。部屋ではあんなにふざけて夜更かししているのに、いざ発表準備になると皆集中力を発揮した。

メンバーは、自分の得意分野でそれぞれ貢献し、文書作成能力がある人は要点良くプレゼン資料をまとめ、計算が得意な人が決算概要を作成し、理論的に話ができる人がプレゼン全体をリードし、演技力のある人が韓国語、日本語で寸劇をした。抜群のチームワークで、僕達は審査員特別賞をものにした。

つぎに、交流キャンプは韓国人学生とのルームメイト生活により国際交流の絶好の機会だった。食事も皆で一緒に行った。国籍に関わらず、食べ物の好みも同じだった。生まれた時から携帯電話と共に育った僕達は、国籍を超えた情報交換に慣れているので、知らないうちに同じ年代だと好みが似ているのかもしれない。これをビジネス観点に当てはめると、優れたアイデアがあれば誰でもあつという間に世界中に商品を売り込むことができるのかもしれない。K-Pop も交流の必須アイテムだった。リクエストに応じ両国の学生が一つになって皆で歌うことができた。コミュニケーションを始めるにあたり、文化の果たす役割を痛感した。

また韓国人学生達の勉強量は想像をはるかに超えていた。学校の後、夜間自律学習(ヤジャ)や塾に行つて更に勉強する。そのような過酷な状況でも自分の興味分野(例、日本への興味)はフォローし、流暢な日本語を話す彼らには頭が下がる。義務づけられた事をこなしながらも、自分の興味のあること、夢への土台をしたたかに組み立てていた。漫然と過ごす自分の現状と照らし合わせ焦り、勉強に真面目に取り組むことはもちろん、自身の夢や目標に向かって特別な準備を始める必要性を感じた。

一方、高校生として同じようなことに悩んでいることも分かった。AI 等により自分

達の将来はどうなるのか、今の勉強は報われるのか、誰も将来のことはわからず回答は出なかったが、僕の中ではこのキャンプに応募した時のように、何かをやるかやらないか迷ったときは、とにかくやる方を選択し前進していこうと思った。

僕はこのキャンプで韓国人学生と日本人学生の両方から刺激を受け、他者に受け入れてもらうためには、まず自分自身の心を開き、語りかけていくことが大切だと思った。またチームでの事業計画を通じて、何事もやる前からあきらめないこと、解決方法は一つに限られないこと、問題を小さく分けて一つ一つクリアしていくこと、人それぞれ異なる考えや才能があり、強みを活かしながら共同作業をすると自分自身だけでは思いもよらない成功につながることを学んだ。キャンプに参加後は経済や国際ビジネスについても意識するようになり、将来はアジアで協力してビジネスをしたいと強く思うようになった。

最後にこの素晴らしい交流キャンプを企画運営くださった主催者の皆様、スタッフの皆様、JKSFF の先輩方、メンターさん、何を考えているのか分からない、でもエネルギーだけはいっぱいだった僕達高校生に辛抱強く付き合ってくだり、本当にありがとうございました。

## 「ここから学べたこと」



朴 才瑛

金沢大学附属高等学校 1年

何もかもが自分にとって新しい。そんな5日間を過ごせたことのすばらしさがキャンプを振り返るたびに思い出される。このキャンプに参加できたことは本当に有意義だったと思う。

キャンプに参加できることが決まった時は本当に嬉しくて、ずっとワクワクしていたのを覚えている。しかし、7月29日が迫るにつれて、不安が大きくなっていったのも事実だ。人見知りで初対面の人とまともに喋れない自分が、ましてや言葉の通じない初めて会う高校生とコミュニケーションをとれるのだろうかという不安は募るばかりだった。

初日は自己紹介とマガジン作成をしたが、予想通り緊張して、自分からチームメイトに話しかけてみたり、自分からマガジン作りに協力したりできなかった。チームに上級生が多かったから、先輩たちにまかせてばかりになってしまっていた部分もあった。

二日目からは、本格的にキャンプが始まった。初日の反省を生かして移動中や訪れた場所で少しずつ自分から話しかけるようにした。

午前中に行った平和記念公園では、初めて見た原爆ドームに衝撃を受けた。毎年学校やニュースによって伝えられる情報では伝わらない、感じられないものがあった。また韓国の高校生の、資料館を真剣な眼差しで見学している姿に、平和への願いは世界のどこへ行っても変わらないと改めて思った。

午後からの経済現場体験では牡蠣の殻を剥く体験をした。難しかったけど、「これどうやってやるの?」とか「すごくきれいにできてる」などのチーム内での会話がとても楽しかった。

キャンプ会場に戻ってからは、事業案の作成に入った。日中の体験を生かして、平和と経済の関係性を考えることは少し難しかったけど、チームで沢山議論できたし、自分も何回か意見を言えたことで初日からの緊張がだんだんほぐれていった。

三日目は、事業案の本格的な作成・完成に向けてチーム全員で協力した一日だった。事業の大まかな方向性は決まったものの、細かい部分の微調整や台本の作成はかなりたいへんだった。やはりそこには少なからず「言葉の壁」があった。

経済と平和という難しいテーマを考えるうえで、普段学校で学んでいる英語では伝えたくても伝えられないことが多かった。しかし、そこでチームは止まらなかった。いったん、日本側の高校生と韓国側の高校生で分れて、話したいことや意見をまとめてまたみんなで一つになって話し合いを開始したり、メンターのタクヨン先生に助けをもらったり、スマホを使って訳したりなど、さまざまに工夫をして「言葉の壁」を乗り越えていった。でも、それが出来たのは何よりもチーム全員が自分の考えを伝えたい、相手の考えについて知りたいと、本気で思い、真剣に事業の作成に取り組むチームワークがセブンイレブンにあったからだと思う。

その後も、発表内容の役割分担を決めてその役割ごとに協力して台本の完成に向けて「ここはこうじゃない？」など声をかけながらひたすらペンを動かした。いつしか自分も初日とは全然変わっていた気がした。チームメイトと話すことが何よりも楽しかったのだ。

そして、四日目。いよいよ発表の日だった。リハーサルもたくさんできて準備万端だったけど、さすがに順番が回ってきたときはすごく緊張したしチームのみんなも緊張しているのが分かった。でも、やはり練習はうそをつかなかった。いやそれ以上だ。全員がそれぞれの役割を完璧にできていたと思う。それに練習ではいつも制限時間の10分を越えていたのに、本番ではしっかりと10分に収められた。賞は取れなかったけど、やり切ったし最高の発表だったと

思う。チーム全員で最後までできたのが何よりも嬉しかった。

その夜は遅くまでみんなで一つの部屋に集まって沢山話して、お菓子を食べて、ゲームもした。少し眠かったけど、ずっと笑顔だった。

最終日。みんなと別れるのは本当に悲しかった。あと一日、あと半日、あと一時間でいいからもっとみんなでいろいろ話したい。バスを見送った後の寂しくなったキャンプ会場に戻って本当にそう思った。

最初は、何も積極的にできない自分がいて、このキャンプが終わっても自分は広島に行く前と何も変わらないまま帰ってしまうかもしれないと思ったけど、優しくて面白いチームのみんなのおかげで積極的に話し合いに参加する大切さや相手のことを思いやる気持ちの素晴らしさなど学校では学べない、ここでしか学べないことを学べたし、少しは変わったと思う。みんな個性豊かで、一番年下だった自分からしたら、ほんとの兄弟みたいな温かい優しさに包まれた感じがした。どんな時も笑いが絶えなかったセブンイレブンが大好きだ。またどこかで会えたらいいな。

最後に、このキャンプ中、ずっとチーム全員に優しく声をかけ続けてくれた、メンターのタクヨン先生、本当にありがとうございました。また、このキャンプが無事に成功するように努めてくださったスタッフの皆さんにも感謝の気持ちでいっぱいです。そして、最高の5日間を共に過ごした25期生の皆さん、本当にありがとうございました。

## 「充実した5日間」

横手 杏奈  
盛岡中央高等学校 2年



キャンプが終わった今でも、あの5日間にあったことは鮮明に覚えています。私が過ごしてきた中でも、印象に残る濃密な5日間でした。

このキャンプに参加するきっかけになったのは、偶々教室に張り出されていたパンフレットを見たことでした。海外研修も間近に控えていたので、国際交流に興味を持ち始めていた時でした。韓国の文化が好きだということもあり、このキャンプに参加しようと思いついて応募しました。合格発表されるまでの間、不安で仕方ありませんでした。電話で合格と聞いた瞬間は思わず飛び跳ねてしまいました。

参加が決まった後は、事前説明会や荷物の準備、そして韓国語を勉強してちょっぴりでも会話できたらと、わくわくしていました。

いよいよ広島に向けて飛び立つ日、台風の影響でまさかの欠航。なんとか次の便で到着することができましたが、初日から予定がずれてしまい動揺してしまいました。でも、そんなことも忘れてしまうくらいに、あっという間に5日間が過ぎ去っていききました。それほど全力で取り組んでいて交流を楽しんでいたからだと思います。

私がこのキャンプで学んだことは「平和」についてです。広島は第二次世界大戦時、原爆を受けたことで知られていますが、日本人の私でも原爆ドームというものは実際に目にしたことはありませんでした。今回訪れて、改めて事の悲惨さを感じました。記念館で資料を目にし、平和記念公園を訪れ、私たちが今後どのようにして戦争のない未来にしていかなければいけないのか考えさせられるものでした。

そして、私にとっての一番の壁は、意思疎通でした。私は人見知りで、英語もろくに話せるわけでもなく、事前に韓国語を覚えてみたものの、話していて理解できることは本当に少なかったです。幸い、チーム内に韓国語もしくは日本語を理解できるメンバーがいたので助かりました。せっかくこんなに近くで交流できる機会なのに、と少し悔しくなりました。どうにかしたいと思い、部屋でみんなと遊んでいた時など、その時に聞こえた単語をメモして調べたりして、プラスにしていけることができました。

事業の計画、ここが私にとって一番の難関でした。やはり母国語が一番話せるので、それぞれ思いついたことを話していくのは、内容を理解していくのに時間に差がありま

した。

しかし、準備を進めていくうちに、大事なのは伝えようという気持ちだと気づきました。片言でもなんでも、とにかく話してみようと身振り手振り頑張ってみたら、案外理解してくれるようで、安心したし自信もつきました。言語をすべて理解できなくても何を伝えたいかはっきりしていれば、意思疎通ができると感じます。

事業発表も無事終わることができ、慌ただしく充実した4日間が終わりました。

5日間、他校や他国の学生との意見交流によって、物事を見る視点や視野が増えたと思うし、少し悔いはあるものの、友達も作れて、いい国際交流ができました。

最後になりますが、日韓経済協会の方、JKSFFの先輩方、チームのメンターさん、カメラマンさん、チームのメンバー、そして送り出してくれた両親、このキャンプに携わってくださった全ての方に心から感謝します。本当にありがとうございました。

